

総合資源エネルギー調査会  
省エネルギー・新エネルギー分科会 省エネルギー小委員会  
建築材料等判断基準ワーキンググループ（第9回）  
議事要旨

1. 日時：令和3年6月30日（水曜日） 10時00分～12時00分

2. 場所：経済産業省別館3階 312会議室  
（※一部の委員、オブザーバーはオンラインにて参加）

3. 出席者：

委員

田辺座長、池本委員、井上委員、岩前委員、加藤委員、鈴木委員、  
中村委員、二宮委員、前委員、望月委員、山下委員

オブザーバー

全国複層硝子工業会、板硝子協会、（一社）日本サッシ協会、  
樹脂サッシ工業会、ロックウール工業会、硝子繊維協会、  
押出発泡ポリスチレン工業会、ウレタンフォーム工業会、  
（一社）日本建材・住宅設備産業協会、（一社）日本建設業連合会、  
（一社）住宅生産団体連合会、（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構、  
国土交通省住宅局住宅生産課建築環境企画室、  
環境省地球環境局地球温暖化対策課脱炭素ライフスタイル推進室、  
経済産業省製造産業局生活製品課

事務局

経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー課

4. 議 題：

- 1 開催趣旨について
- 2 建材トップランナー制度及び窓の性能表示制度の現状等について
- 3 窓関係制度の論点について
- 4 ワーキンググループの今後の進め方について

5. 議事要旨：

○議題1 開催趣旨について

開催趣旨について了承された。

○議題2 建材トップランナー制度及び窓の性能表示制度の現状等について

サッシ及び複層ガラスの建材トップランナー制度における目標基準値に対する進捗状況については、次回以降、法令に基づき定められた実績評価方法で集計し、開示していくことでも了承された。

### ○議題3 窓関係制度の論点について

窓関係制度の論点については、以下の委員の指摘も踏まえつつ、今後議論をしていくこととして了承された。

#### (トッランナー制度関係)

- ・ 目標基準値をZEHの外皮基準と整合的に設定するのは良いが、ZEHの外皮基準は窓と躯体に切り分けられていないため、設定に当たっては慎重な検討が必要ではないか。
- ・ 対象の建築物を広げることは重要。ただし、性能が低い製品であっても二重窓のような組合せの技術により性能を高めて用いられているものもあるので、こうした製品が排除されないよう一定の配慮が必要ではないか。
- ・ 性能を加味した全体への影響度（インパクト）を考慮して検討対象を判断すべきではないか。
- ・ 建材トッランナー制度が機能するには低性能品を禁止して、高性能品しか売れないようにしていく必要があるのではないか。
- ・ 制定当時に特殊品とされた不活性ガス、真空ガラス、トリプルガラスは、現状では普及しており、高い性能のものが目指すべき目標として正しく評価・設定されることが重要ではないか。

#### (窓の性能表示制度関係)

- ・ 分かりやすく、かつ、低性能及び高性能な製品がそれぞれ適切に評価され、性能表示の普及が進むような制度設計を検討することが必要ではないか。
- ・ 冷房時と暖房時の性能を単純に合算して評価するのではなく、冬の日射取得等の重要な要素を踏まえて現場で適切な選択が行われるような制度を検討することが必要ではないか。

### ○議題4 ワーキンググループの今後の進め方について

ワーキンググループの今後の進め方については、事務局資料4のスケジュールを基本としつつ、関係業界へのヒアリングも行いながら進めていくこととして了承された。

以上

お問合せ先

資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー課

電話：03-3501-9726

FAX：03-3501-8396